

## 平成28年度 大阪府立芦間高等学校 第2回 学校協議会

日時 平成28年12月25日(日) 午後2時00分～午後4時50分  
場所 本校2階 会議室

構成員 <協議会委員>  
 笹山 幸子 元府立高等学校長  
 竹本 剛 P T A会長  
 藤田 俊和 後援会会長  
 松本 紀容子 守口市立八雲中学校 校長  
 宮坂 政宏 週刊教育P R O 編集委員  
 山崎 裕也 スクール I E (学習塾) 京阪エリアマネージャー

<事務局>  
 東崎 浩 教頭  
 久森 雅代 事務長  
 甲斐 徹 首席 兼 情報部長  
 辻 真人 首席 兼 総務文化部長  
 塩崎 靖子 指導教諭 兼 教務主任  
 斉藤 衛 生徒指導主事  
 阿野 高明 進路指導主事  
 槇田 純子 保健主事  
 平尾 映子 第1学年主任  
 岸本千都子 第2学年主任  
 飯尾 勝紀 第3学年主任  
 水嶋 育美 支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長  
 (大西利男) (校長)

配付資料 ○資料01 第1回学校協議会議事録  
 ○資料02 平成28年度学校経営計画及び学校評価(進捗状況)  
 ○資料03 平成28年度研究授業一覧  
 ○資料04 アクティブ・ラーニング(A L) 授業実践レポート(5名分)  
 ○資料05 遅刻者数推移関連資料  
 ○資料06 他校視察関連資料(2件)  
 ○資料07 広報誌(2種類)

### 内 容

- (1) 教頭(校長代理)挨拶
  - (2) 報告 [1]平成28年度学校経営計画とその進捗状況について  
 [2]参考となる事柄について
- 平成28年度学校経営計画とその進捗状況について
- ・生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上
  - ・夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実  
(総合学科教育研究大会「ジョブカバリー」発表動画)
  - ・安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底
  - ・広報活動の充実
- 参考となる事柄について
- ・視察報告・・・滋賀県立草津高等学校〔A L推進、I C T活用、改革推進部設置等〕  
 和歌山県立伊都中央高等学校
  - ・本校におけるA Lの授業実践(指導教諭研究授業動画)

- (3) 協議 [1]平成28年度学校経営計画に係る取組みの推進について  
[2]参考となる事柄について  
[3]平成29年度学校経営計画の構築に向けて

## [1] 「平成28年度学校経営計画に係る取組みの推進」についての協議

### 1. 「生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上」について

- (委員) アクティブ・ラーニング(AL)については、「先生の準備したものを生徒にどのように理解させていくか」また「その学びをどのようにして『深い学び』に繋げていくか」という視点が必要であり、子ども主体ではあるが、教師が、「どのように舞台を作っていくか」「どのようにロードマップを作っていくか」を考えながら、全体のカリキュラム・マネジメントを考えなければならない。
- (委員) 授業アンケートに基づく改善策として、「言語活動の充実」、「AL」、「キャリア教育」の3つに力を入れていかなければいけない。特に、「言語活動の充実」は、必ずしなければいけないこととしてとらえる必要がある。
- (委員) 塾では「机外観察」を行っている。授業に参加できない生徒、やる気のない生徒に対する声かけを行っている。理解の着地点や単元の内容によって、ALの準備の難しさがあり、苦労が伝わってきた。
- (委員) 視察報告や研究授業の内容について、先生方で共有を図る機会はあるのか。
- (事務局) 共有する時間がなかなか十分には持っていない、というのが現状である。
- (委員) 生徒の発表を生徒全体で共有できる機会はあるのか。
- (事務局) 生徒の発表は、クラスや学年等で共有している。年明けにも、全体での発表会がある。
- (委員) 生徒の発表の様子は、学校説明会等で流しているのか。
- (事務局) 今のところ、説明会の後での発表であるので流してはいない。来年度については、中学校教員様対象説明会や学習塾教員様対象説明会等で流すことをすでに想定して準備をしている。
- (委員) ホームページ等には上げないのか。
- (事務局) 動画は重いので難しい。
- (委員) 大阪府のホームページは、外部のYOUTUBEなどにリンクはできないのか。指導教諭の授業実践も含めて、配信することは広報として効果的である。
- (委員) AL授業実践レポートをホームページにアップするのは、誰に見てもらうためのものか。
- (事務局) 保護者やこれから本校への入学を検討している中学生等に、本校ではこのような授業をしているということを見てもらうためにアップしたいと考えている。
- (委員) 教育の成果を中学生や保護者に見てもらいたいのであれば、パスワード等で管理して公開することも考えられる。公開するととても喜んでもらえると思う。
- (委員) 私学では、動画で高校生活の様子を紹介している。

### 2. 「夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実」について

- (委員) キャリア教育は、これからの子どもには重要である。ALは、キャリア教育において行うことが効果的であり、その意味ではジョブカバリーや4000字論文は面白い。文部科学省のキャリアパスポートにもあるが、幼・小・中・高の縦の連携と、個々の生徒の体験などの横のラインとで、厚みを作っていく。
- (委員) 中堅私立大学の合格状況は、現時点ではどのような状況か。
- (事務局) 現在、公募制推薦入試が終わったところである。正確な合格者数の集計は、もう少し後になる。第3回の協議会では、大よその結果を報告できると思う。
- (委員) 芦間高校への志願者は、進学を意識した生徒が多い。産近甲龍等の中堅私立大学の合格実績が気になる。
- (事務局) 学校によって増減があるが、全体としては検討していると思われる。

- (委員) これまで、進路指導面での家庭との連携の肯定率が低い。保護者の不満はどのような点なのか。
- (委員) 保護者の感覚としては、経過も含めた「連携」ということを想像しているのではないか。最終的には「連携」が行われていないとは考えにくい。質問の意図が理解されていない可能性があるかもしれない。
- (委員) 「情報提供の有無」を聞くようにしたらよいのではないかと思う。

### 3. 「安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリング・マインドを持った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底」について

- (委員) H26年度からの経過を見ると、H26年入学生が特別に多いが、その後の入学生は減少し、本年度入学生は非常に少ない。保護者を交えた上で指導した成果が出ているということは言えると思う。
- (委員) 朝早く登校して学校で勉強するように指導できないか。遅刻は自分にとって損であるという意識付けが重要。保護者や中学校と連携し、「芦間は時間に厳しい」と思わせることが必要。
- (委員) 平成28年の11月の3年の遅刻はとても多い。状況をどのように把握しているのか。
- (事務局) この学年特有の状況かと思われる。受験への関連の有無が影響しているのかもしれない。また、入学当初から学校に来にくい生徒がいたのも、一つの原因なのかもしれない。
- (委員) 中学校では、現在、進学希望調査を行っているところである。芦間は入りにくい高校であり、中学時代に遅刻や欠席がほとんどない生徒が進学しているはずである。個々の生徒には様々な事情があるかもしれないが、総合学科で自分のいいところをつかめるチャンスがあるので、個々に適切な指導をお願いしたい。
- (委員) 生徒の実状に合った遅刻指導をするべきである。
- (委員) 子どもたちが「いじめ」に向かわない予防はしているのか。
- (事務局) 1年生では、ピア・サポートでの仲間づくりを行っている。また、「いじめ防止及び対策委員会」では情報収集を行っている。他に、相談室の活用、生徒アンケートなどを実施。いじめだけでなく、不登校の生徒にとっても、学校に通いやすい状況を作ることが重要だと考えている。
- (委員) 先生方の気付きやゆとりが大切。中学校ではどうなのか。
- (委員) 中学校では、生徒どうしのもめごと「いじめ1件」とカウントしている。

### 4. 「広報活動の充実」について

- (委員) 教育活動の一環として広報活動をするべきである。芦間に来てどれだけ頑張ったのか、個人レベルでの成果もHPで発信すべきである。
- (委員) ジョブカバリーの発表などは、中学生が見て感心するより、むしろ保護者が見て感心するものである。そこを強調することで差別化が図れる。近隣校が総合学科になり、将来大学進学したい生徒は芦間へ、高校生活を楽しみたい生徒はその近隣校へという流れができつつある。平均より高めの生徒が芦間を希望している。
- (事務局) 語学研修が目的という生徒もいる。そういうところもポイントになるかもしれない。
- (委員) アドミッションポリシーはどのように伝えているか。そして、結果としてそれにふさわしい生徒がどれだけ来ているか。アドミッションポリシーに基づく入試を実効化していく必要がある。
- (事務局) 現状としては、ボーダーゾーン内の選抜に活用するというシステムになっているので、アドミッションポリシーに基づく入試で学校が大きく変わるということはない。
- (委員) 自分の行きたい学校についてしっかり調べて、求める人材を知って受験することは、学校選択においては有効であるが、自己申告書の使われ方には課題があると考えている。言語力という意味では、事前提出より、当日学校で書く方が意味はある。

## 5. 全体を通して

- (委員) 数値目標化しにくい部分について、より明確にする方が、保護者にも理解しやすい。
- (事務局) 1年の宿泊研修の活動が、ピア・サポートを中心に、集団の中での自分の存在価値を見つける、という芦間高校特有の活動である。映像化して紹介したい。
- (委員) 自尊感情が低い生徒が多い。生きる力を付ける必要がある。
- (委員) YOUTUBEで見たオーストラリアでの「感謝」を持った学習の実践が印象に残っている。教員も「感謝」の気持ちが大切。「笑顔の登校、満足の下校」であればいい。

### [2]「参考となる事柄」についての協議

- (委員) 草津高校視察について、机のゴム(テニスボール)は有効である。雑然となるようなきっかけがあると、よりうるさくなるので、工夫が必要である。
- (委員) 中学校の実践として、教員間的小グループ(教科はバラバラ)内での研究授業を行っている。少人数であれば、お互いに授業を見て、空いた時間に協議しやすい。「小さな研究授業」が有効である。

### [3]「平成29年度学校経営計画の構築」に向けての協議

- (事務局) 学校経営計画については、最近では、どちらかというと、マイナーチェンジ、数値の変更のみで推移させてきた。視点の変わった提言がいただければありがたい。
- (委員) カリキュラム・マネジメントが重要である。教員がどのように協働的に関わるか。小グループによる研究授業も深まりが出てよいと思う。
- (委員) 学校が、時間や教育資源をどのように有効に使うか。保護者、地域、生徒、他校生、公的機関、学習塾などを学校が主体となって関連させていく必要がある。
- (委員) 単線的ではなく、複線的な学びを盛り込むべきである。
- (委員) 現在やっていることの打ち出し方を考え直してみることも必要である。教員数が多いことで、一人ひとりの生徒を大切にきめ細かく指導していることをどう打ち出すかが大切。

#### (4) 教頭(校長代理)挨拶、次回予告

◎次回(第3回協議会)は、3月22日の予定。

